

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:竹下将也

所属:鹿児島県立中種子養護学校

記録日: 令和2年2月10日

キーワード: 遠隔授業、協働学習、自己肯定感、SNS

【対象児の情報】

○学年

高等部2年

○障害名

知的障害(療育手帳 B2)

○障害と困難の内容

- ・ 読み書きは小学校高学年程度、計算は中学校1年程度の学習を行っている。
- ・ 書くことや気持ちを言葉で表現することに苦手意識がある。自発的な関わりが少なく、声が小さかったり、聞き取りにくかったりする。
- ・ 自己肯定感が低く、最初からあきらめたり、消極的だったりする場面が見られる。

【活動目的】

○当初のねらい

- ・ 他者との意見交換や情報共有を行い、自分の気持ちを伝える力を高める。
- ・ 自己評価や他者評価を通して、様々なことに自信を深める。

○実施期間

令和元年5月～令和2年1月

○実施者

竹下将也

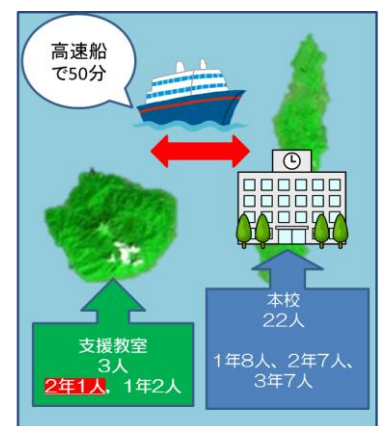
○実施者と対象児の関係

支援教室との連絡調整係

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・ 昨年度より高等学校内に設置された特別支援学校高等部支援教室に在籍している。昨年度の在籍は対象生徒一人であった。今年度は、1年生2人が入学し、異学年の3人学級で活動している。
- ・ 音楽、体育、家庭は高校の同学年の学級で授業を受けている。それ以外は、支援教室で1年生の2人と一緒に学習している。
- ・ 対人関係やコミュニケーションに苦手意識があり、消極的な面が見られるが、受け答えは丁寧に見える。
- ・ 絵を描くことが好きだが、支援教室や高校側に美術教員がいないため、本校の美術教員がスクーリング時に指導している。
- ・ スクーリングで来校し、本校の生徒と学習活動に参加している。年間8～10回のスクーリングの計画を立てている。



○活動の具体的内容

種子島と屋久島をつなぎ、集団で学んだり、得意なことを伸ばしたりできる環境を整える

① ビデオ通話機能「FaceTime」使って、本校生徒とのやりとりや協働学習

遠く離れた支援教室から FaceTime を使って、本校で実施している実習壮行会に参加した。遠距離ということや、予算、日程などの様々な要因から、去年は参加が難しく、資料だけ作成して、本校の生徒が代読して発表していた。

また、宿泊学習の事前学習でも FaceTime を活用し、一斉指導に支援教室の生徒も参加し、内容を確認したり、お互いに分担された活動(レクリエーション等)を説明しあったりする学習も行った。



使用したアプリ



② 学校用 SNS アプリ「ByTalk for School」を活用した絵画指導

絵画制作において、メッセージや写真のやりとりに By Talk for School を活用した。制作途中の絵画を撮影して ByTalk for School で送信してもらい、それについて美術教員がアドバイスを送るやりとりを繰り返した。美術教員が、送られてきた写真に印をつけたり、色をつけたりして、具体的な指導を行った。

使用したアプリ



○対象児の事後の変化

① ビデオ通話機能「FaceTime」使って、本校生徒とのやりとりや協働学習

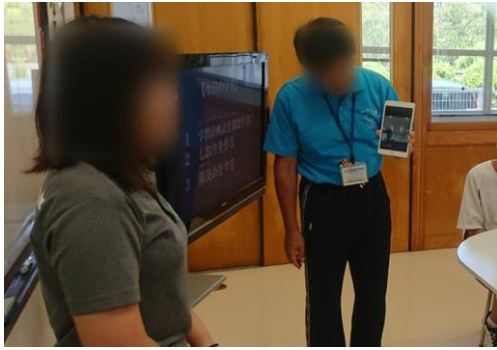
産業現場等における実習では、事前学習で実習に向けた学習や目標設定→実習壮行会での決意表明→実習→事後学習での振り返り→実習報告会での発表と一連の学習を行っている。

昨年までは、実習報告会のみで参加で、当日いきなり集団の前での発表を行っていた。今年度は、昨年参加できなかった実習壮行会にビデオ通話機能を活用し、前期・後期2回とも参加することができた。実習壮行会では、いつもの教室環境で発表を行えることで、不安が軽減でき、スムーズに発表することができた。また、壮行会での発表を経験し、報告会への見通しがもてたことで、報告会当日も集団の前で落ち着いて発表することができた。他の生徒の発表を聞くことで、「こんな実習先もあるのか」と今後の自分の実習先についても考えるきっかけとなっていた。



実習壮行会にビデオ通話で参加する生徒

その他、宿泊学習の事前学習、学習発表会の練習内容の伝達など、昨年にはなかった協働学習を行うことができた。



ビデオ通話で一斉指導の説明を聞く様子

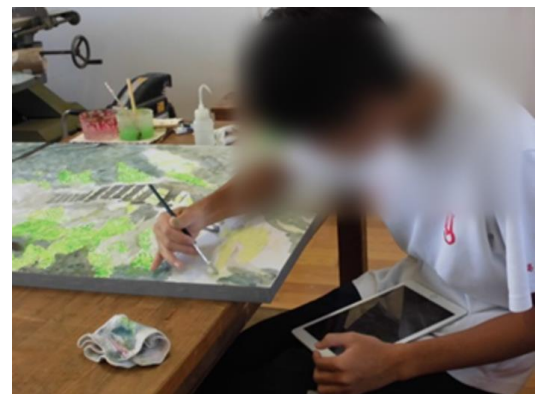
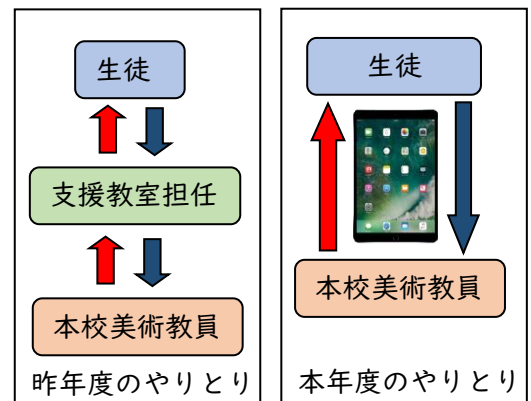
集団学習(スクーリング含む)	
昨年度	8回
今年度	11回

集団で学習した機会の比較

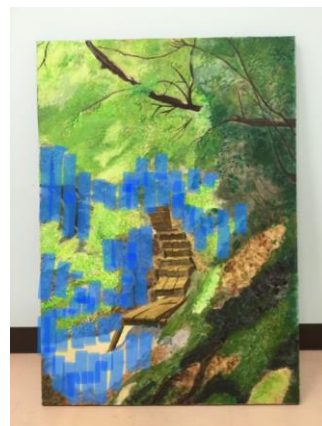
②学校用 SNS アプリ「By Talk for School」を活用した絵画指導

昨年度も絵画の指導を行っていたが、教員同士のやりとりを生徒に伝えることが主となっていた。今年度は、学校用 SNS アプリ By Talk for School を活用して、生徒と直接やりとりを行いながら指導することができた。対象生徒は、日ごろからスマートフォンを使用しており、By Talk for School の使い方もすぐに覚えて使用することができた。

夏休み中に種子島の本校で実施したサマーチャレンジ(夏季講習)で制作を開始し、2 学期以降、屋久島支援教室で制作に取り組んだ。9 月上旬、一度美術教員が絵の進捗状況を写真で確認し、By Talk for School でアドバイスを送ると、以後、生徒からの自発的な発信が出るようになった。「どこを塗ればいいですか?」「どんな色を作ったらいいですか?」など、具体的なアドバイスを求めることが増えてきた。美術教員も、生徒が送ってきた写真を取り込んで加工し、印を付けたり、モデルを提示したりしてやりとりを繰り返した。具体的なアドバイスが文字や写真として手元に残ることで、確認したり、振り返りがしやすかったりしたため、一人でも制作を続けることができた。

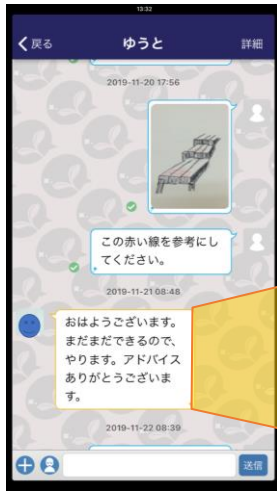


絵画制作の様子



美術教員が、生徒が送信した画像を加工し、目印を付けて具体的なアドバイスをを行った。

美術教員との連携が重要!!



絵画制作において、ほぼ完成した段階で、もし時間があればということで美術教員がアドバイスをした際、「まだまだできるので、やります。」という前向きな発信があった。楽しみながら、意欲的に制作に取り組んでいる様子が感じられた。

おはようございます。
 まだまだできるので、
 やります。アドバイス
 ありがとうございます。

アドバイスに対する感謝のコメントも毎回添えられていた。

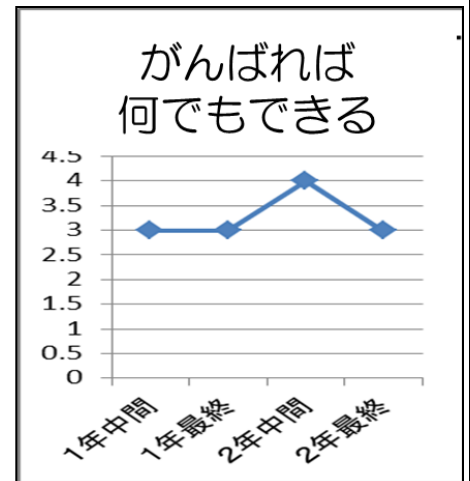
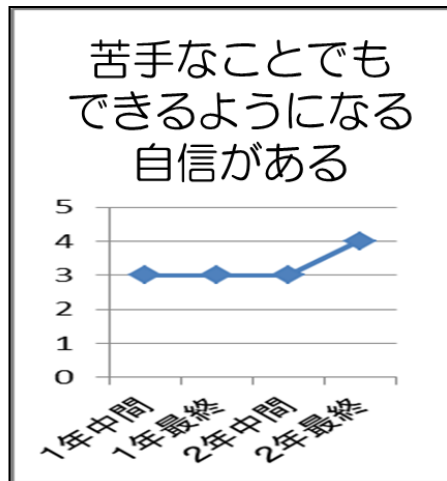
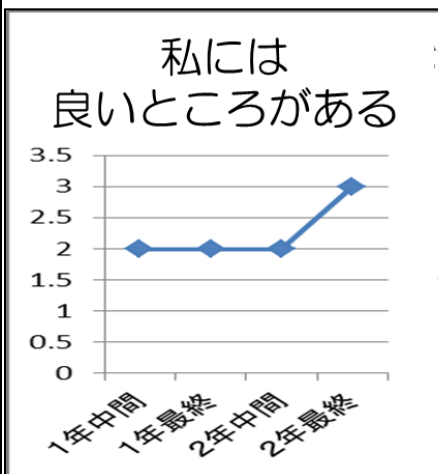
【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

同じ教育課程で学ぶ生徒との関わり合いや集団学習、得意なことを(絵画)を通して認められる喜びや達成感を味わうことができる環境を設定することで、生徒の自己肯定感が高まってきている。

- ・ 集団学習の機会が増えたため、他者の前での発表が増えたが、不安が軽減できる環境から学習を始め、見通しをもったり自信を付けたりすることで、大勢の前でも臆することなく発表することができたのではないかな。
- ・ メッセージアプリの活用が生徒の実態に合った支援だったのではないかな。スマートフォンなどの機器に慣れていることや、送信相手の時間を気に掛けることなく、メッセージを残しておけば、アドバイスをもらえるという安心感や気軽さが、生徒からの発信が増えた要因と考える。納得できる絵画が完成したことが生徒の自信につながったのではないかな。

○エビデンス(具体的数値など)



- ・ 本校では、年2回、生徒の自己肯定感をはかるために生徒アンケートを実施している。3年間データを蓄積し、生徒の指導や支援に活用するようにしている。

対象生徒のアンケート結果を見ると、自分を認めたり、苦手なことでもやってみるとできたという達成感や自信が高まったりしていることが分かる。日常の支援教室での学習や、今年度の情報端末を活用した取組の成果が少しずつ現れてきている。

○ その他エピソード(画像などを含めて)



県高校美術展で入選

- 協働学習や絵画指導以外でも、生徒同士の支援教室でのおもしろエピソードをメッセージで報告したり、スクーリング時に話をしたりと対象生徒とのやりとりが広がった。
- 教員の学校評価などの今年度の反省において、支援教室とのタブレットを活用した授業が良かったとの意見が多数あった。
- スクーリングだけでなく、ビデオ通話で合同学習ができ支援教室との連携ができたとの意見もあった。
- 屋久島からの移動は、負担にもなるので、今回のような学習が継続できたらよいとの意見もあった。